

スポーツ文化の風を発信する

学報NITTAIDAI 19号

2008. Winter



CONTENTS

特集1 ■ ロンドンへの挑戦が今日から始まる

2008 北京オリンピック報告会 — 1

特集2 ■ 新春 若き獅子達が箱根路を駆け抜ける

第85回箱根駅伝迫る — 9

新採用教員の研究内容 — 11

学外研修報告 — 13

クラブ情報 ● 08年度秋季クラブの主な大会成績 — 17

NEWS ● 08年度下半期ニュース — 18

INFORMATION ● dot.NITTAIDAI — 19



Nissu
Nippon Sport Science University

表紙写真／湯元健一
北京オリンピック
レスリング男子フリー60kg級銅メダル
(日本体育大学助手)

ロンドンへの挑戦が 今日から始まる

北京オリンピックから早くも3か月余り。

選手達の活躍は、今なお色濃く目に焼きついている。

11月19日、本学関係の代表選手・役員が集い、

「2008北京オリンピック報告会」が開催された。

次回ロンドン大会での再会を誓う選手、

また新たなスタートへの思いを語る選手、

それぞれの思いを込めて、お互いの健闘を称えあった。

この日、本学および選手達の次なる挑戦が始まった。



感動をありがとう

2008北京オリンピック報告会



特集1

感動を
ありがとう

2008
北京オリンピック
報告会



落合卓四郎学長メッセージ
選手の皆様、スタッフの皆様。北京オリンピックでは、日本国民に何事にも代えがたい感動と勇気を与えてくださいました。ありがとうございました。そして、お疲れ様でございました。今大会では本学在学学生、卒業生あわせて26名の選手と20名の役員が出席致しました。今回、本学関係者によるメダル獲得数は、日本選手団が獲得したメダル総数の25個のうち10個、40%という素晴らしい結果となりました。このような活躍ができたのも、皆様方の支えがあつてこそであり、厚く感謝申し上げます。日本体育大学は、今後もさらにわが国のスポーツ振興に貢献していくよう努めてまいります。本日はありがとうございました。



開会にあたり落合卓四郎学長が選手達の健闘を称えた

会場は五輪の思い出話、競技談、学生時代の懐かしい話に花が咲いた。
ファイナレで役員・選手に花束を贈呈。ここで選手たちから応援の謝辞、今後の抱負などが述べられ、会場から熱い拍手が送られた。

報告会は山本博短期大学部准教授の司会により進行。開会にあたり落合卓四郎学長が選手・役員に労いの言葉を述べるとともに、関係者に謝意を表した。来賓の方々から祝辞をいただいた後、「特別学長賞」「保護者会スポーツ競技活動褒賞」「日本体育会表彰」「同窓会スポーツ奨励表彰」の順で選手表彰が行なわれ、北京オリンピックの成功を祝した。

当日は選手20名、役員10名が出席。日本体育協会、JOC、選手所属団体、各競技団体をはじめとする関係団体の皆様、地域の皆様、保護者会・同窓会の皆様をお招きし、盛大に開催された。またマスコミ各社も取材に集まり、賑わいを見せた。



学校法人日本体育会表彰は湯元選手、内村選手



保護者会スポーツ競技活動褒賞は内村選手に



特別学長賞として、本学早川選手・内村選手を表彰

新旧メダリスト・トップアスリートが一堂に集結！ 日体大の強さを内外にアピールした豪華競演



内村選手に言葉をかける池田敬子名誉教授



メダリスト・入賞者に同窓会スポーツ奨励表彰が贈られた



松浪健四郎衆議院議員・前文部科学副大臣の
発声で乾杯



会場には選手のご家族の姿もみられた



別室では
選手達への
個別インタビューも



北京五輪、学生時代の話題で
会場は和やかに歓談



日頃、日本体育協会は、日本体育大学出身の諸先輩、現役学生の皆さんに大変お力添えを頂いております。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

メダル獲得数が示すように、北京オリンピックで、日体大は日本のスポーツ界の真のリーダーにふさわしい活躍を見せてくれました。日体大には旧知の方々も多く、自称「日体大の応援団」として誠にうれしい限りです。私たちはこれからもっと、日本がスポーツを大事にする国であるということを世界にアピールしていかなければいけません。その中で、皆さんもアスリート、あるいは指導者として、高い志を持てますます頑張ってくださいと思います。さらなる活躍を期待しております。

来賓メッセージ

日本体育協会会長
元内閣総理大臣
衆議院議員 森喜朗先生



先輩から後輩へ受け継がれる日体大の伝統



閉会の辞は監物永三副学長



成田國英副学長より代表選手達に花束贈呈



選手を支えた役員・コーチ・トレーナーの方々を紹介され、花束が贈呈された



Beijing 2008



今後も水泳の
素晴らしさを伝えたい

中村 礼子

(なかむら・れいこ) (競泳)

アテネ大会は現役学生でしたが、卒業後初めてのオリンピックでもメダルを獲れてホッとしています。たくさんの方から声を掛けていただいて、頑張ってきて良かったと思いました。日体大から沢山のメダリストが輩出されていたことにも驚きましたが、自分もその中に名前を連ねることができて最高です。現在は子どもたちに水泳を指導することも行っていますが、多くの人たちに水泳の素晴らしさを伝えていけたらと思っています。

競泳●女子200m背泳ぎ銅メダル ●女子100m背泳ぎ6位 ●女子4×100mメドレーリレー6位／東京SC所属



現役学生の頑張り
は刺激になる

北島 康介

(きたじま・こうすけ) (競泳)

このような報告会場で皆さんの前に立てることは光栄です。またお世話になった先生方に挨拶が出来たことを嬉しく思います。皆さんからの応援の力があって、2大会連続で自分が描くような結果を出せたと思います。多くのメダリストを輩出した日体大の一員であることを誇りに思います。また後輩となる現役の学生たちが頑張っている姿をみるとこちらも刺激になります。水泳で学んだことを今後の人生の成長に生かしていきたいと思っています。

競泳●男子100m平泳ぎ金メダル ●男子200m平泳ぎ金メダル ●男子4×100mメドレーリレー銅メダル／日本コカ・コーラ所属



皆さんの
応援に感謝したい

内村 航平

(うちむら・こうへい) (体操)

オリンピックから帰ってきて、周囲の方々の反応がすごかった。とにかく多くの方に応援していただいていることが分かりました。北京オリンピックは何年分もの経験をしたような気がします。もちろん次の目標はロンドンオリンピックで金メダルを獲ること。まずは代表に入り続けて、世界選手権などで確実に結果を出したいと思います。自分自身にプレッシャーをかけて、それを乗り越える強さをこの4年間で身に付けたい。

体操●男子団体総合銀メダル ●男子個人総合銀メダル ●男子種目別床5位／日本体育大学2年



やはり特別な大会だった

沖口 誠

(おきぐち・まこと) (体操)

オリンピックはやはり特別な大会だなと思いました。独特の雰囲気はあの舞台に立ってみないと想像がつかないものでした。次のロンドンオリンピックは出場するだけで満足するのではなく、結果を追い求めていきたいです。日本代表チームでは年上の選手たちが引退を発表していますが、自分はまだリーダーとしての自覚が生まれていないのが本音です。しかし、努力を忘れることなくまた4年後、このような報告会に戻って来たいと思います。

体操●男子団体総合銀メダル／KONAMI所属



実力以上の力が出せた

松永 共広

(まつなが・ともひろ) (レスリング)

メダル獲得は、自分の実力以上のものが大会で出せた結果だと思います。メダルが決まったときはとにかく嬉しい気持ちで一杯でした。帰国後、私が日頃指導している子どもたちや関係者の方がメダルを見て喜んでくれたことも、自分にとっては今後の励みになりました。6歳から22年間、レスリングを続けてきて、諦めずに目標を追いかけてきました。今後もレスリングに対して楽しく、そして新たな目標を持って接していきたいと思います。

レスリング●男子フリー55kg級銀メダル／総合警備保障所属



緊張と満足の大会でした

外村 哲也

(そとむら・てつや) (トランポリン)

初めてのオリンピックの舞台はとにかく緊張しました。やはりオリンピックはそれまでの国際大会とは雰囲気が全然違うものでした。メダルには届きませんでしたが、精一杯の演技が出来たので満足感があります。現在の目標はもちろんロンドンオリンピック、日々の努力でまたこのような報告会に戻って来たいと思います。日体大の在学生には、それぞれ目標を持って、毎日の練習からの積み上げが大事だということを伝えたいです。

体操 トランポリン●男子個人4位／ザ・ビッグスポーツ所属



メダルの夢は
後輩に託します

池松 和彦

(いけまつ・かずひこ) (レスリング)

もっと試合をしたかったというのが本音です。しかしアテネオリンピック終了後、東京から福岡へと環境も変わったなかで、2大会連続でオリンピック出場できたことには満足しています。オリンピックという舞台で戦う喜びを感じられたことを、今後は後輩たちに伝えていきたいと思います。日体大でいい汗をかかせてもらったことが今の僕につながっています。レスリングを人生の教科書として、今後も頑張っていきます。

レスリング●男子フリー66kg級2回戦／K-POWERS所属



次はロンドンで金メダル

湯元 健一

(ゆもと・けんいち) (レスリング)

目標であったメダル獲得を実現できてホッとしています。このような晴れやかな場でメダル獲得を報告できたことを幸せに思います。今は次の目標へ向かって、今一度自分のレスリングを見つめ直しているところです。次の目標というのは、もちろんロンドンオリンピックで金メダルを獲ることです。日頃の練習から支えてくださっている大学関係者に感謝しながら、今後も努力していきます。応援よろしくお願いします。

レスリング●男子フリー60kg級銅メダル／日本体育大学助手



3大会目でつかんだ 五輪初勝利

舛田 圭太

(ますだ・けいた) (バドミントン)

シドニー大会、アテネ大会にも出場したのですが1勝もできず、3度目のオリンピックで初めて勝てたので、感慨は深いです。自分の力を120%出せました。逆に動きすぎて、最後の試合の終盤に足が止まってしまったくらい(笑)。日体大にはスマッシュの得意な選手が多かったので、それを拾う練習を重視することでレシーブ力を身につけることができました。今後も、母校からどんどんオリンピック選手が出てくれればな、と思います。

バドミントン●男子ダブルス5位/トナミ運輸所属



連続出場は自分の誇り

松本 慎吾

(まつもと・しんご) (レスリング)

北京では思うような成績を上げることが出来なかったことは悔しいです。しかしアテネ大会に続いて連続でオリンピックに出場できたことは誇りに思います。やはりオリンピックはスポーツにおける最高の舞台、そこで世界一を決める試合を出来る喜びは何物にも代えがたい経験です。日体大の学生たちも常に目標を持って、毎日の練習に取り組んでもらいたいと思います。自分も今後は後進の指導でレスリングに貢献していくつもりです。

レスリング●男子グレコ84kg級1回戦/一宮運輸所属



スポーツ心理学などで 競技力向上

早川 浪

(はやかわ・なみ) (アーチェリー)

個人で6位という成績でしたが、メダルを目標にしていたので、残念な気持ちが強いです。ロンドンでのメダル獲得という目標が、より明確になりました。日体大に入ってスポーツ心理学やスポーツ栄養学などを学んで、競技力が向上したのは大きかったです。たとえば、スポーツ心理学では、緊張したときに具体的にどうすればいいか、といったことまで学べました。日体大生のみなさんには、入学時に抱いていた目標を最後まで貫いてほしいですね。

アーチェリー●女子個人6位 ●女子団体8位/日本体育大学4年



専門家たちと協力する 指導者に

大東 忠司

(おおつか・ただし) (バドミントン)

ダブルスのパートナーである舛田選手とは、日体大の1年次からコンビを組んできました。この北京大会は、前回出場したアテネに比べて、食事も格段においしく、体育館もプレーしやすかったことなど、良い印象が残っています。今後は現役を引退して指導者になりますが、日体大にはスポーツに関していろいろな分野の専門家がいるので、何でも自分1人だけで教えるのではなく、そうした専門家の力を借りながら頑張りたいです。

バドミントン●男子ダブルス5位/トナミ運輸所属



更なる飛躍をめざして
日体大大学院へ

岩本 亜希子

(いわもと・あきこ) (ボート)

私は早大を卒業して大学院から日体大にお世話になりました。自分のスポーツの経験を体系的に学んでみたかったです。北京での成績は、日本人女子として過去最高の9位でした。決勝進出(6位以内)を目標にしていたので残念ではありますが、これまでは外国勢とは大きな差がありレースにならなかったのが、この大会は最後までなんとか勝負できるようになったという点では納得しています。小さな積み重ねを大事にした結果でしょうね。

ボート●女子軽量級ダブルスカル9位／アイリスオーヤマ所属



2日間だけの
日本人史上最高位

菅原 智恵子

(すがわら・ちえこ) (フェンシング)

7位という成績で、その時点では、五輪史上、日本人最高位だったのですが、2日後に太田選手が銀メダルを獲得されて、少し影が薄くなってしまいました(笑)。2回戦で、敗れたものの、自分よりはるかに世界ランキングが上の選手に怖気づくことなく戦えたことが財産ですね。私は、体育教員になりたいくて日体大に入りましたが、そういう人は多いと思います。実際に教職にも就きましたが、苦労もあるけれど得られるものも大きいですよ。

フェンシング●女子個人フルーレ7位／県が浦高校・宮城クラブ所属



ジワジワと
悔しさが募ってきた

山田 政晴

(やまだ・まさはる) (ウェイトリフティング)

9位と、あと一步で入賞を逃して、そのときはあまり残念な気持ちはなかったのですが、あとでジワジワと悔しさが募ってきました。ジャークで日本記録も出せましたし、世界とは紙一重の差だと実感できたことはよかったです。大学時代の一番の思い出は、仲間とつらいことや苦しいことを乗り越えた寮生活。今、日体大ウエイトリフティング部は2部に落ちて、1部に昇格したばかりですが、学生には1部で優勝をめざしてほしいですね。

ウェイトリフティング●男子56kg級9位／群馬総合ガードシステム所属



日本のカヌーを
アピールした今大会

竹屋 美紀子

(たけや・みきこ) (カヌー)

周囲に圧倒された前回アテネ大会。今回はまったく違う雰囲気の中で、戦うことができました。世界に日本のカヌーを意識してもらうことができたと感じ、満足しています。本場ヨーロッパ勢と肩を並べて戦い、自分にとっても大きな自信になりました。小さな目標をひとつひとつクリアしていくことで、大きな目標を実現することができます。後輩のみなさんも、強い意志を持ち、目標に向かって頑張ってください。

カヌー●女子カヤックペア500m5位 ●女子カヤックフォア500m6位／谷地高校所属



次回に向けさらなる
競技力向上を

近賀 ゆかり

(きんが・ゆかり) (サッカー)

残念ながらメダルを手にすることはできませんでしたが、アテネ大会を上回る結果が出せたことをうれしく思っています。第3戦のノルウェー戦では、チームの皆さんに支えられて、代表初得点をあげることができました。今後、世界の強豪に対し、フィジカル面をカバーできるようテクニックを磨き、競技レベルをさらにあげていくことが課題です。常に向上心を忘れない。この言葉を日体大生みなさんに送りたいと思います。

サッカー●女子4位/日テレ・ベレーザ所属



応援していただいた
皆さんに感謝

藤本 索子

(ふじもと・もとこ) (ソフトボール)

今回、思いがけない形で北京オリンピックに出場することができました。とにかく、代表選手の名に恥じないようなプレーをしようと精一杯努力しました。支えてくださったみなさまに心から感謝いたします。2012年のロンドン大会では、残念ながらソフトボールは種目から外れますが、ぜひ復活できるよう頑張っていきたいと思います。努力は必ず報われます。日体大生みなさんも、自分を信じて頑張ってください。

ソフトボール●金メダル/レオパレス21所属



今回の経験を
後輩に伝えたい

堀籠 佳宏

(ほりごめ・よしひろ) (陸上競技)

4年間、一步一步着実に歩みながら結果を出してきたことで、今回北京オリンピックに出場することができ、非常にうれしく思っています。世界の壁は厚く苦戦を強いられましたが、世界の大舞台で走ることができて幸せでした。日体大陸上部の短距離選手としては、初めてのオリンピック代表となりました。この経験を日体大の現役学生みなさんにつなげて、後に続くオリンピック代表選手が出てきて欲しいと思います。

陸上競技●男子短距離4×400mリレー予選総合14位/富士通所属



悔いは残りますが
最高の舞台でした

齋藤 信治

(さいとう・のぶはる) (バレーボール)

壮行会の際に「メダルを獲得できます!」と約束させてもらったのに、全敗という結果には本当に応援していただいた方に対して申し訳ない気持ちで一杯です。チーム全体が勢いに乗ることが出来ませんでした。悔いは残りますが、オリンピックという夢の舞台に立てたことは自分のキャリアにとって良かったと思います。自らは現役を引退しますが、後輩たちには出場するだけでなく、大舞台で活躍することの実現を期待しています。

バレーボール●1次リーグ/東レ所属

北京オリンピックまでの16年間、全日本のコーチとして4大会のオリンピックを経験することが出来ました。これは、ひとえに大学関係者の深いご理解があったからであると感じています。シドニーでは、谷選手、アテネでは野村、内柴選手、北京では、平岡、内柴選手の担当コーチとして指導にあたりましたが、心技体の兼ね備わった選手ばかりで逆に選手から学ぶ点が多かったように思います。特に人一倍努力出来る才能と、目的に対する明確な目標を持った選手達でした。今後は、この貴重な経験を学生指導に活かし、オリンピックに出場し金メダルを獲得できる選手の育成に努めて行く事、また底辺の拡大、指導、育成を担う指導者を輩出することも併せて行っていきたいと思います。

(柔道男子コーチ/日本体育大学准教授)



山本 洋祐

(やまもと・ようすけ)

私にとって初のオリンピックで、最初はドタバタしました。選手団のID発行手続きに時間がかかり、競技の2日前まで選手村に入れなかったことが印象に残っています。日体大の飛び込み選手のOB組織「飛び込み会」から、日本を、そして日体大を代表する選手が出るといいですね。私もまた機会があれば、力をお貸ししたいです。

(水泳・飛び込みコーチ/栃木県公園事務所所属)



松本 行夫

(まつもと・いくお)

食事面、環境面など、きめ細かく気を遣い、選手達をサポートしましたが、北京での滞在は比較的快適でした。今回、デュエットでは銅メダルを獲得しましたが、特に中国チームを意識して、プレッシャーを感じてしまったことが悔やまれます。トレーナーとして、メンタル面でのケアの重要性を感じた大会でした。

(水泳・シンクロナイズドスイミングトレーナー/日立横浜病院所属)



加藤 知生

(かとう・ともお)

コーチした廣田選手は、本番直前でケガをしてしまい、万全の状態で競技をやらせてあげられなかったことが残念ですが、そんな悪条件の中、精神的に落ち込むこともなく、よくやったと思います。現在、私は他大や高校生の選手を指導しています。日体大に負けない選手を輩出することが私なりの日体大への恩返しです(笑)。

(体操・トランポリンコーチ/阪南大学クラブ所属)



岩下 由利子

(いわした・ゆりこ)

ある程度のレベルで競技経験があるトレーナーということで、フェンシング協会から声をかけていただきました。太田選手の銀メダル獲得の瞬間は、スタッフ一同ガッツポーズでしたよ。先日、インカレの試合を見ましたが、今の日体大生にはもう少し“気合い”を見せてほしいと思います。年寄りの小言みたいですが(笑)。

(フェンシングトレーナー/治療室ワイズ所属)



近藤 義昭

(こんどう・よしあき)

日本の体操は、今から76年前の第10回ロサンゼルス大会に初めて参加して以来、今大会まで本学関係者が全ての大会に選手、監督・コーチとして携わっています。よくこれまでバトンが繋がったものと感謝しています。今大会は内村選手の24年ぶりの個人総合銀メダル獲得に尽きます。得意な床で高得点を獲得、直後のあん馬でまさかの2度の落下、次のつり輪から最後の鉄棒まで本当によく頑張ったと思います。このメダルは「最後まで諦めてはいけない」と言うメッセージであり全力を出し切ることの素晴らしさを、彼自身が示してくれました。監督として選手の演技に手に汗を握り、祈る気持ちで見守りながら心から嬉しく思いました。ご声援本当にありがとうございました。

(体操男子監督/日本体育大学教授)



具志堅 幸司

(ぐしけん・こうじ)

北京オリンピックは一言で言うと過去2回帯同したオリンピックと比較し、ケガ人が多く更に4位という残念な結果であり、今回ほど首脳陣、選手、ドクターとの高いコミュニケーション能力が求められる事を強く感じingことはありませんでした。アスレティックトレーナー(以下AT)とはスポーツ現場(界)と医学界の仲介役です。現場では、机上で学んだ事だけでは対応できず、その時々で臨時に適切な判断をしなければなりません。それには経験が必要となりますが、来年度からAT専攻が始まり、私自身がこれまで現場で経験し、学んだことの多くを学生には惜しみなく伝え「現場に強い日体大」を実践できるアスレティックトレーナー輩出の必要性を改めて感じました。

(野球トレーナー/日本体育大学准教授)



河野 徳良

(こうの・とくよし)

日頃選手達と行動をとともにしている競泳チームのトレーナーとして、今大会の成績は非常にうれしく思っています。後に続く日体大生の皆さんも、さまざまな経験を積んで、世界の大舞台に立って欲しいですね。世界には、すごい選手や優秀なスタッフがたくさんいます。そこから良い刺激を受けて、大きく成長してください。

(水泳・競泳トレーナー/白石鍼灸治療院所属)



加藤 明生

(かとう・あきお)

1992年のバルセロナオリンピック以来、16年振りの出場となった男子バレーボール。総務として準備・運営全般に携わりましたが、初出場と言っているほどすべて一からのスタートで、大変苦労しました。これをきっかけにバレーボールの人气がさらに高まることを期待しています。次回、ロンドン大会が楽しみです。

(バレーボール男子総務/朝日大学所属)



井上 義浩

(いのうえ・よしひろ)

日体大時代のさまざまな体験、諸先生から頂いたアドバイスが、私のレスリングの土台を築いてくれていると思っています。指導にあたって、それらのことが大きな支えとなっていることは言うまでもありません。レスリングの松永共広選手、湯元健一選手をはじめ、日体大関係者の皆さまの健闘を心から称えたいと思います。

(レスリングコーチ/中京女子大学所属)



栄 和人

(さかえ・かずひと)

第85回箱根駅伝

第85回箱根駅伝が目前に迫ってきた。

記念大会となる今年は例年より3校多い23校が出場する。

前回の大会で惜しくもシード権獲得を果たせなかったが、

去る10月18日(土)に実施された予選会を4位で突破。

1949年以来、61年連続61度目の出場権を手にした。

過去、第45回大会から第49回大会まで5連覇を達成、

通算9回の優勝経験を誇る日体大が、古豪復活をかけて箱根路に挑む。

予選会では、主力の2年生選手達が好調な走りを見せてくれた。

本大会でも区間新記録への期待が高まっている。

箱根をはじめとする駅伝各大会の情報は

日体大ホームページ「駅伝応援サイト 駆け抜けろ!日体大」で見ることができる。

ぜひチェックして欲しい。



新春、若き獅子達が箱根路を駆け抜ける。 彼らの勇姿に声援を送ろう!

いたします。

今シーズン、箱根予選会、全日本と、チームとして思うような結果を残せていません。しかしその後は箱根本戦に向けて順調に調整が出来ていると思います。あとは僕をはじめ、4年生がしっかりと走りをして流れを作り、勢いのある後輩たちに襷を繋げたら、結果はついてくると思います。堅実なレース運びと総合力で勝負したいと思います。沿道やテレビで応援してくださる皆さん、応援宜しくお願いいたします。

野口 功太 (のぐちこうた) 主将



ポイントとなる区間は全て「強いて言うなら」山。“これまで予選会、全日本と結果を残せていません。箱根では派手さはないけど確実な駅伝を目指し、”日体大“というプライドにかけて、何としても3位以内に入りたいと思いますので、応援よろしく願っています。

今年のチームは絶対的なエースがいないので、これと言った特徴がありません。ただ、このままでは結果を残すことが出来ないの、常にチームが丸となるよう指導しています。目標は3位以内に入ることです。

この1年間は、「一人一人が変わらなければならぬ。そして自立した選手になろう」というテーマを掲げてチーム作りをしてきました。今のところ故障者もなく、順調に仕上がっています。

別府 健至 (べっふけんじ) 監督



駆け抜ける!日体大

◆第85回箱根駅伝出場チーム◆

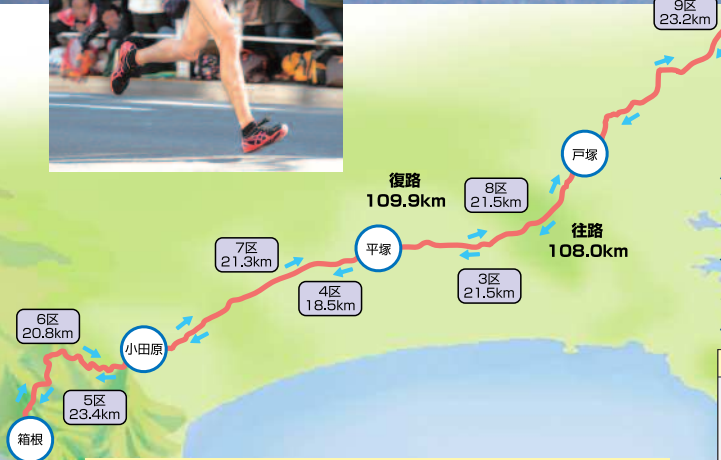
シード校

1	駒澤大学	43年連続	43回目
2	早稲田大学	33年連続	78回目
3	中央学院大学	7年連続	10回目
4	亜細亜大学	8年連続	32回目
5	山梨学院大学	23年連続	23回目
6	中央大学	80年連続	83回目
7	帝京大学	2年連続	10回目
8	日本大学	12年連続	80回目
9	東洋大学	7年連続	67回目

予選会からの出場校

10	城西大学	6年連続	6回目
11	東京農業大学	2年連続	60回目
12	上武大学	初出場	
13	日本体育大学	61年連続	61回目
14	拓殖大学	4年ぶり	32回目
15	神奈川大学	18年連続	41回目
16	東海大学	37年連続	37回目
17	専修大学	5年連続	65回目
18	明治大学	2年ぶり	51回目
19	大東文化大学	42年連続	42回目
20	国士舘大学	4年連続	42回目
21	順天堂大学	52年連続	52回目
22	青山学院大学	33年ぶり	14回目

関東学連選抜
(オープン参加、個人記録のみ有効)



「NITTAIサポーター」が
応援をサポートします。

応援ポイントには学生・教職員有志で構成する「NITTAIサポーター」が配置されています。応援ポジションやのぼり旗・手旗の配付を行っていますので、応援に参加していただける方は各区間の応援ポイントで一緒に応援してください。(表参照)



* 箱根駅伝コース沿道での応援について 頑張る選手のためにも、以下のことを厳守してください。

1. スタート地点、フィニッシュ地点、中継所の前後100m以内での大学を標示する横幕、のぼり旗、小旗等を使つての応援はしないでください。
2. 応援は歩道上で行い、車道に出ないようにしてください。
3. 競技者通過の1時間以上前からの応援はしないでください。
4. コース沿道のガードレール、電柱、フェンスなどの公共物に、のぼり旗や横幕を固定しての掲出はしないでください。
5. 大学名入りの応援道具を、本学と無関係の一般観衆へは配布しないでください。
6. 自動車、自動二輪車、自転車等の車両による応援は禁止です。その他、警察、審判、役員等の指示には従つて応援してください。

	応援ポイント	集合時間
往路 1区	①大手町(応援団ポイント)	7:15
	②田町(勤労福祉会館前)	7:30
	③新八ツ山橋(新八ツ山橋信号付近)	7:40
	④蒲田(京急蒲田駅前)	8:00
	⑤鶴見中継所	8:20
2区	①横浜駅東口(横浜そごう前)	8:45
	②権太坂三丁目(狩場町歩道橋付近)	9:00
	③戸塚中継所	9:25
3区	①藤沢(松下冷機付近)	9:50
	②茅ヶ崎(サザンビーチちがさき入口付近)	10:10
	③平塚中継所	10:30
4区	①二宮(押切橋付近)	11:00
	②小田原(山王橋付近)	11:25
	③小田原中継所	11:30
5区	①大平台(ヘアピンカーブ付近)	12:00
	②宮ノ下(富士屋ホテル前)	12:05
	③小桶園(ホテル小桶園前)	12:15
	④恵明学園(恵明学園前)	12:20
	⑤芦ノ湖(応援団ポイント)	12:50
復路 6区	①芦ノ湖(応援団ポイント)	7:15
	②恵明学園(恵明学園前)	7:40
	③小桶園(ホテル小桶園前)	7:45
	④宮ノ下(富士屋ホテル前)	7:50
	⑤大平台(ヘアピンカーブ付近)	7:55
7区	①小田原中継所	8:15
	②小田原(山王橋付近)	8:25
	③二宮(押切橋付近)	8:50
8区	①平塚中継所	9:20
	②茅ヶ崎(サザンビーチちがさき入口付近)	10:45
	③藤沢(松下冷機付近)	11:10
9区	①戸塚中継所	10:25
	②権太坂三丁目(狩場町歩道橋付近)	10:00
	③横浜駅東口(横浜そごう前)	11:10
10区	①鶴見中継所	11:35
	②蒲田(京急蒲田駅前)	11:55
	③新八ツ山橋(新八ツ山橋信号付近)	12:15
	④田町(勤労福祉会館前)	12:25
	⑤大手町(応援団ポイント)	12:45

**日体大の選手に
熱いエールをお願いします。**

選手は大学名だけでなく、自分の「名前」を呼ばれると一層頑張れるそうです。各区間の選手名は、日体大ホームページ「駅伝応援サイト 駆け抜ける!日体大」を参照してください。

私たちは伝統ある日本体育大学の学生です。スポーツマン精神に則り、各大学全ての選手にも熱いエールをおくりましょう。



社会福祉は、 日体大生が存分に 力を発揮できるフィールド。 現場からの期待もますます高まっています。

健康学科
横山 順一 准教授



大学3年次、所属していた陸上競技部の
先輩や友人と合宿所の前で(前列左)

20数年前、私が日体大を卒業し、社会福祉団体に就職した時、大学でも職場でも「なぜ？」と不思議がられました。当時は日体大から福祉職へ進むことが非常に珍しく、まさに異端児だったのです(笑)。保健体育の教員を目指していた私が、在宅福祉に関する新聞記事を目にしたのが、大学4年生の時。幼少の頃、重度の認知症だった祖母のことが記憶に蘇りました。家族だけで介護することが当たり前で、使える福祉サービスは老人ホームしかない時代でした。もしもあの頃、在宅で利用できる福祉サービスがあったならと思います。これから主流になる大切なサービスだと強く感じたことが、社会福祉の仕事へ目を向けるきっかけとなりました。

大学卒業後、1年の勉強期間を経て、横浜市の外郭団体である財団法人横浜市のホームヘルプ協会(現社会福祉法人横浜市福祉サービス協会)へ。ここでともに、ホームヘルパーの派遣事業と新規事業の立ち上げに携わりました。今でこそ広く行われている福祉サービスですが、当時はゼロからのスタート。生活の支援を必要としている人たちに何とかサービスを提供できないものかと、時には六法全書と睨めっこ(笑)。入職早々から大事な仕事を任せられ、とても手こたえを感じました。人材を募集しても、「ホームヘルパーって何ですか。」と聞かれる時代です。利用者としてヘルパーの調整役にとまらず、人材を育てていくことが非常に重要な課題でした。技術ばかりでなく、人としての質が問われる仕事として、教育の必要性を実感したのもこの時です。

社会福祉士の資格取得後、自らの専門性をさらに高めたいと、大学院に進学しました。私が研究対象に選んだ「老年学」は、アメリカの大学や大学院では一般的ですが、日本では桜美林大学大学院が初めての開講であり、二期生として学びました。自分が仕事上で関わる高齢者は、介護を必要としているだけではなく、医療や心理的ケアも必要です。経済的な不安を抱えていることもあります。老年学は、高齢者にかかわるさまざまな領域の知識を横断的に学べる点が魅力でした。研究のための研究ではなく、現場に還元できる研究がしたいという思いから、「訪問介護サービスにおける事故の分析」を研究テーマとし、経験

と教育の必要性を再認識しました。

大学院修了後、現場へのこだわりとともに、若い人の育成にも力を注ぎたいという思いが強くなり、一大決心をして18年勤めた職場を退職。

母校に戻り、日体大の学生に触れ、社会福祉的な素養の良さにあらためて驚いています。核家族が多い中、日体大には三世代、緒に暮らしてきた学生が比較的多いのもその理由かもしれません。高齢者の問題を身近なこととして受け止め、よく理解してくれているという印象があります。社会福祉コースでは、就職先や実習先から学生の積極性やコミュニケーション能力が評価されて、「ぜひ日体大生に来て欲しい」と就職のオファーがたくさんが来ています。

老年学のテーマの一つである介護予防においても、日体大生は大いに期待されています。今、65歳以上の約8割は介護を必要としない比較的元気な方々ですが、運動を怠れば身体機能が徐々に衰えてきます。日体大には「健康運動実践指導者」の資格が取得できるカリキュラムがありますが、この資格と「社会福祉士」の両方の資格を有することは、社会福祉の現場でもかなりのアドバンテージになります。さらに、学校教育に関連して、スクールソーシャルワーカーも、これからの社会福祉が担う重要な領域となるでしょう。日体大生の今後の活躍がとても楽しみです。

社会福祉の仕事で大切なのは、悩むこと。他人の生活に入り込んで支援するわけですから、悩むのは当然です。逆に、悩まなければ自己満足で終わることになります。皆さんの成長過程で、私のこれまでの経験を役立てることができたら、とても嬉しいです。



PROFILE ● よこやま じゅんいち
1963年生まれ。神奈川県出身
●社会福祉学
●桜美林大学大学院
国際学研究科老年学専攻修士課程
●修士(老年学)





平成6年度インカレ優勝。
準決勝の筑波大戦にて。



選手時代の経験と、 これからの私の成長を 日体大生の競技力向上に 活かしていきたい

体育学科
辻 昇一
助教

7年前、ハンドボール界初のプロ契約選手として大崎電気工業と契約。その後、トヨタ車体に移り、実業団で通算11年間プレーしてきました。昨年、選手生活にピリオドを打ち、指導者として新しいスタートを切ったわけですが、思い起こすと、私の人生のターニングポイントはいつも日体大とともにありました。



大学2年次キャンプ実習の1コマ

私の高校時代に日体大男子ハンドボール部は全日本学生選手権三連覇を達成。その強さを目の当たりにしたのが、私と日体大との最初の出合いです。どうしても日体大でハンドボールがやりたいと思い、迷わず入学しました。

日体大では、憧れだった松井幸嗣監督に指導いただいたことが、選手としての大きな転機となりました。これといった特徴がなかった私を、トップディフェンダーに導いてくださったのが松井先生です。走ること、速攻、シュートのイロハ、スカイプレー、チームワーク、そして見ている人が面白いと感じるハンドボールを意識することを教えていただきました。日体大で得た「武器」が、私の選手生活を支えてくれたと言っても過言ではありません。

実業団に進み、1997年には世界選手権にも出場。順調にプレーを続けていましたが、その後、再び転機が訪れます。今までにないスランプに陥り、思うようなプレーが出来なくなったのです。そんな時、書店で手にした本が「日本人のメンタルトレーニング」。著者は当時日体大にいらした長田三臣先生でした。研究室を訪ね、お話を聞いているうちにスポーツ心理学に興味を持ち、プレーヤーを続けながら大学院に通うことに決めました。あくまで自分のパフォーマンス向上のために勉強を始めたわけですが、指導者という新たなポジションへシフトするきっかけを作ってくれたのはやはり日体大でした。

大学院では長年スポーツに携わってきた先生方のお話を聞くことができ、また、楠本恭久先生の指導の下、新しい発見や様々なヒントをいただくこともできました。取り組んだ研究テーマは「自律訓練法」。試

合中のプレッシャーを緩和するにはどうすればいいか。心理学的療法をスポーツ選手に応用し、その効果を検証しました。例えば、過度な緊張も心の焦点をちよと外すことでリラックスできる。そんなメンタルトレーニングがあります。今まで経験の中で試行錯誤してきたことが理論的に体系付けられ、プレーヤーとしてのものの見方が非常に広がった気がします。

指導者となった今、日体大の伝統である「走るハンドボール」を継承し、競技力を強化していくことが私の使命です。監督を務める女子ハンドボール部は、藤原佑先生が監督時代に、インカレ17回優勝という輝かしい実績を持っています。この数年優勝から遠ざかっていますが、まずは、私が指導者として、学生達に様々な意味においての「武器」を持たせてあげられるように成長することです。そして、学生達と共に日本一奪取に向けて全力投球していきます。

恩師・松井先生は常々、学生の私たちに対して「謙虚であれ」とおっしゃっていました。現在、学部と短大でハンドボールの授業を担当していますが、今の日体大生を見て、時々、「もったいないな」と感じることもあります。一生懸命やろうという姿勢をストレートに表現できる学生とその場を適当にやりすこそうと考える学生がいるのです。KYという言葉が流行っていますが、「この場はちよと引いておいた方がいいかな」と表面的な空気を読んで、自分から諦め、抑えてしまふ。それは謙虚とは違い、自分をどこかごまかしているように感じます。自分に謙虚になるためには厳しさが重要です。人に対しても、自分に対しても、本当の意味で謙虚な気持ちになつて頑張ること、いろいろな可能性が開けてくるはず。その姿勢は、社会に出てから、日体大生の「武器」になりえるように思います。松井先生の言葉の持つ意味の重さを私自身も改めて感じながら、日々指導に取り組んでいます。



PROFILE ● 辻 しょういち
1973年生まれ。福島県出身
●運動方法(ハンドボール)
●日本体育大学大学院
体育科学研究科博士前期課程
●修士(体育科学)

学外研修報告

自然科学研究室

長船哲齊 教授



分解能を作出するため、鮮明な生体分子超微細構造を分子細胞形態学的に捉える事が出来るからであろう。生命科学の分野に限定すると、新しい生命現象を発見するというプレイクスルーな発表よりも、従来の研究の継続的な講演が多くみられた。

生命の基本は細胞で、現在までに分子レベルで多くの現象が解つてきた。同時に、生命は構造があつて成り立つており、分子はその内部にあつて初めて機能する。したがって、電子顕微鏡による形態学的アプローチは電子機器の開発、発展とともに、今後、益々重要になるであろう。

ドイツ、アーヘン市はゲルマン民族のカール大帝が移動、定着したドイツ発祥の地であり、長い間皇帝の戴冠式がアーヘンで行われていた古い街である。そのため、街には荘厳で由緒ある城、市庁舎、教会が目白押しである。その影響もあつて、旧市街地区では、かたくなにドイツ語に固執し、国柄か、英語があまりスムーズに通じないため外国人には不便な町でもあつた。しかし、今回のドイツの学会主催者は、会議の合間には、さすがにヨーロッパ流ならではの歴史、文化伝統の数々で外国の参加者を持て成してくれたのが印象的であつた。例えば、ヨーロッパの歴代の大統領の迎賓館に使用されるゴシック様式のアーヘンの旧市庁舎で王冠、

聖書、カール皇帝の絵画がかかっている場所での国際学会の晩餐会が開かれるといった歓迎ぶりである。

オランダでは、ライデン大学で、人類最初に顕微鏡を発明しミクロの世界を垣間見た科学者であるレーウエフックの顕微鏡を見学した。レーウエフック顕微鏡は手のひらサイズであるが、レーウエフックによつて、17世紀に酵母菌、精子や赤血球が発見されたのである。また彼を尊敬する一人として、デルフトの旧教会を訪問し、顕微鏡の生みの親であるレーウエフックの墓を訪ね、感激の気持ちで胸がいっぱいであつた。

最後になりましたが、出張に際してご協力を賜りました日本体育大学関係者の皆様に感謝し、厚く御礼を申し上げます。

2008年8月28日から9月8日まで、ドイツおよびオランダにて学外研修のため出張した。ヨーロッパ国際電子顕微鏡会議はドイツの最も西に位置するアーヘン市(Aachen)で8月31日から9月7日まで、約3000名の参加のもとで開催され、われわれは研究発表を行つてきた。研究は9月3日、本学の清原伸彦教授・渡邊功教授 および東京医科大学・江原友子助手の共同で、生命科学の領域において「Stage-dependent localization of mitochondrial DNA during the cell cycle of *Euglena gracilis* Z by immuno-electron microscopy」と題して発表した。



皇帝の旧戴冠式広間で会議
アーヘンはドイツ発祥の地であり、歴代の皇帝の戴冠式や国際的な講和条約が締結された、ドイツの古い都である。



ドイツ・アーヘン国際会議場(ICC)
ゴシック様式の重圧な国際会議場は有名な温泉保養施設、豪華ホテルやカジノなどの広大な複合施設のなかにある。



国際会議の晩餐会が行われたドイツ迎賓館
旧市庁舎は、14世紀のカール大帝の居城で、伝統ある宝物館になっている。ここでは毎年ヨーロッパに貢献した功労者への「国際カール賞」の授与式と晩餐会が行われる。内部には栄光の受賞者チャーチル、アイゼンハワー、ケネディ、キッシンジャーなどの額が掲げられている。

学外研修報告

教養等 I 教養、外国語研究室

岩佐克彦 教授

フランス・オランダにおける 生涯学習施設の 情報化について

今まで、国内外の美術館・博物館を、特に情報化という視点から、特に展示品の理解のための支援ツール(音声ガイドなど)に関して中心的に調査してきた。

今回調査した美術館は、パリでは、ルーブル美術館、ギメ美術館、オランジェリー美術館、アムステルダムでは、アムステルダム国立美術館、ゴッホ美術館、アラルト・ビールソン博物館、アムステルダム歴史博物館、アンネの家、アムステルダム市立美術館、レンブラントの家、デンハーグでは、マウリッツハイス美術館、ロッテルダムでは、ボイマンス・ファン・ヘーニンゲン美術館である。

今回の調査内容を、ルーブル美術館を例に見てみる。この美術館では、音声と画像を表示できる写真のような説明ガイドツールが利用できる。タッチパネル式を採用して操作がきわめて簡単であることが特徴である。ガイド・ツアーを設定し、それ



マルチメディアガイド

に従って順番にみる方法と、作品の示している番号を入力して説明を聞くという二つの方法があった。しかし、ルーブル美術館の膨大なコレクションに比べ説明している作品はきわめて少なく、説明がほしいと思う作品でも解説を聞くことができないものが多数あった。

この美術館には、三台のコンピュータを備えたマルチメディア室があり、展示品の解説を見ることが出来る。コンピュータは、トラック・ボールと三つのボタンだけで操作できる。利用するものはほとんどいなかった(左写真参照)。

そのほかにアフリカ・アジア・オセアニア・アメリカ美術部の二部に「解釈の空間」と呼んでいるインタラクティブ・ビデオルームがあった。十の画面に向か



コンピュータールーム

つて二人がけの長いすがあり、上記の文化についてのビデオを見ることができるようになっていた。しかし、この美術部が、ルーブル美術館のなかでは、もっとも奥まったところにあり、ビデオを鑑賞する人もいなかった。

また、ルーブル美術館は展示室ごとに、説明用のシート(右写真参照)が日本語も含めた各国語で書かれていた。しかし、それを読んでいる人は一度も見かけたことはない。

その他の美術館・博物館についても同様な調査を行った。多くの利用者は観光のために訪れ、時間もないので、著名な作品を見たというだけで満足してしまうのかもしれない。自らの目(感性)で作品を発見し、評価するまでには至っていないと思われる。このような利用者にも作品を気軽に深く理解できるようなツールが生まれることが今後の課題である。



説明用シート

研修テーマ「アンチ・ドーピングに関する研究」
短期研修期間は9月8日(月)～9月27日(土)

学外研修報告

体育科Ⅲ 体育科専門1研究室

依田充代 准教授

1. 研修目的

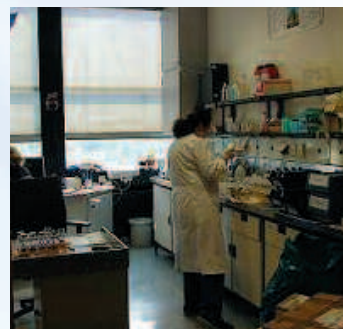
スポーツ科学の発展に伴いドーピング問題は複雑化し、現在WADA(世界アンチ・ドーピング機構)の禁止している薬物は多様化している。また、平成15年の静岡国体から、国民体育大会でのドーピング検査がはじまり、ドーピングは部のアスリートの問題ではなくなってきた。今回の短期研修ではスポーツ学科を持つ大学のアンチ・ドーピング研究者や機関を対象にEU3カ国での調査を行い、研究者との共同研究も視野にいれながら、それぞれの国の取り組みや、大学の実情や指導、学生の現状や対応などについて研修を行った。

2. 聞き取り調査

◎ 体育大学におけるドーピング問題の現状とアンチ・ドーピング教育について
◎ アンチ・ドーピング教育に対する国の取り組みについて

(1) ドイツ

・ Prof. Dr. Wilhelm Schanzer (ケルン体育大学ドーピング検査機関所長)
・ Renate Schlomer-Holland (ケルン体育大学広報室)
(2) イギリス



ドイツ(ドーピング検査機関内)



ケルン体育大学(レストランドドーピング)

・ Prof. Barrie Houlihan (インフラ大学)
・ Dr. Joe Marshall (UKスポーツ)
(3) イタリア

・ Prof. Nicola Porro (カッシーノ大学)

・ Marta Giannmaria Daniele Rossi (UISP(みんなのスポーツ協会))
・ DSSA Paola Stolfi (衛生省)

今回3週間という日程でドイツ、イギリス、イタリアのアンチ・ドーピング研究の聞き取りを行ったが、それぞれの国の取り組みや体育大学の現状を知ることができ、大変有意義な研修となった。1999年に国際レベルのスポーツにおけるアンチ・ドーピング活動を促進し、調整することを目的としてWADAが設立され、それぞれの国でア



ケルン体育大学
(Renate Schlomer-Holland hollandさん)

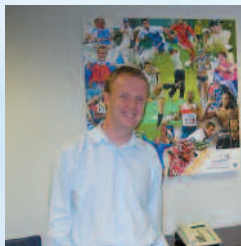


イギリス (Barrie Houlihan教授)

ンチ・ドーピング教育が行われてきたが、その成果の蓄積にはまだ時間が必要であり、今後は特にアメリカやカナダなどの大学がスポーツ推薦で選手を育成している国の現状分析を進めていく必要がある。また、今回の聞き取り調査で明らかになったヨーロッパの大学やクラブの取り組みとして、指導者である監督やコーチに「私たちは倫理規定を守ります」という誓約書へのサイン、また入学者にもサインの義務化を行っていることから、我が大学でも早急に取り組むよう提案すると共に、薬物から学生をどう守っていくのかを含め今後も研究を継続していきたい。



イタリア (Nicola Porro教授)



イギリス (UKスポーツDr. Joe Marshall)



UISPのスタッフLOREDANA

学外研修報告

1. 研修先

Department of Molecular, Cell and
Developmental Biology, University
of California, Los Angeles

2. 研修期間

平成19年8月1日から平成20年7月31日

運動生理学研究室

中里浩一

准教授

UCLAキャンパス内の風景です。ここはCourt of Sciencesと呼ばれていた場所です。この庭の周辺にいわゆる実験・理論系の研究室の建物が並んでいます。私が実験をしていた建物はここです。右側に立っているBoyer Hallと呼ばれるところでした。



UCLAは全米でもトップクラスの学生および研究者が集まる大学です。今回私はコラーゲンなどの細胞外マトリックス分野にて長年一線活躍していたJohn Fessler教授の研究室にて研修を行いました。そしてFessler先生は自身が発見したpapilinというタンパク質の骨格筋における役割を主に研究しました。研究内容の概要は下記を参照ください。もちろんスポーツ生理の分野でも著名な教授が在籍しており、私も滞在中に筋・神経生理で著名なRoland R Roy教授やJames G Tidball教授に協力を仰ぐ場面がありました。それに加えてUCLAはその教授陣

日本大長期研修を利用して二年間アメリカ合衆国カリフォルニア州にあるUCLA (University of California, Los Angeles) に研修いたしました。UCLAがあるカリフォルニア州ロサンゼルスは一年中温暖で過ごしやすい気候です。また、ロサンゼルスは全米のみならず全世界から様々な背景を持った人々が生活をしている全米第二の都市という顔も持ち合わせています。日本大にとってロサンゼルス市は1932年および1984年のオリンピック開催都市ということでもなじみの深い都市です。

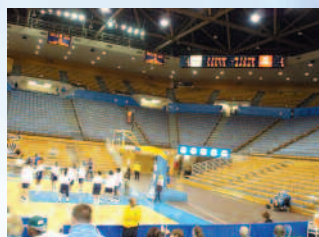
UCLAは全米でもトップクラスの学生および研究者が集まる大学です。今回私はコラーゲンなどの細胞外マトリックス分野にて長年一線活躍していたJohn Fessler教授の研究室にて研修を行いました。そしてFessler先生は自身が発見したpapilinというタンパク質の骨格筋における役割を主に研究しました。研究内容の概要は下記を参照ください。もちろんスポーツ生理の分野でも著名な教授が在籍しており、私も滞在中に筋・神経生理で著名なRoland R Roy教授やJames G Tidball教授に協力を仰ぐ場面がありました。それに加えてUCLAはその教授陣



ロサンゼルスオリンピックコロシウムにて

および全世界の著名な研究者によるセミナーがほぼ毎日開催されています。私もこの滞在中に幾度となくセミナーに参加しました。UCLAの環境は本当に刺激的で、研究を進めていく上ではこの上ないものであるということを実感しました。

UCLAはその研究が世界でトップレベルであることは言うまでもありませんが、スポーツも大変盛んです。大学内には日本大でいうところのスポーツ局であるAthletic Departmentがあり、それがUCLAのスポーツのマネージメントを担っています。Athletic Departmentがある建物の一階にはUCLAスポーツの様々な展示がなされていて、誰でも自由に観覧することが出来ます。アメリカ全土でも大学スポーツが大変盛んで



UCLA内にある体育館 (Pauley Pavilion) で女子バスケットボールの試合が開催されたときに撮影したもの。

スポーツが大変盛んで

研究内容の概要

細胞外マトリックスタンパク質であるpapilinの骨格筋における役割

Papilinは1987年にショウジョウバエ培養細胞上清より単離された基底膜タンパク質であり、トロポスポンジ様領域とシステインを豊富に含むスパーサー領域からなるpapilin cassette, Kurnitzドメイン, IgG様ドメイン, placドメインから構成されている。また、近年相次いで報告されているADAMTSあるいはADAMTSLにその構造が類似しており、その関連性が指摘されている。

Fesslerらはショウジョウバエを用いてAbigail (ADAMTS-1) を欠失することで同じくBMPを欠失したgbbと類似した形質を示すこと、UAS-Gal4系を用いてAbigail発現部位にpapilinあるいはpapilin cassetteを強制発現させることによりBMPシグナルの下流に位置するPMADが増加することなどを示した。すでにFessler研ではpapilinがADAMTS2 (procollagen-N-proteinase) に対してin vitroで非競争阻害することを証明しており、BMPの空間的情報伝達制御にADAMTS, papilinが関与することを示唆する非常に興味深い結果が得られてきている。

マウス全臓器を用いたmRNA発現解析などからpapilin mRNAは骨格筋、心筋、腎臓などに高い発現が見られることがわかっており、これらの臓器においてpapilinが重要な役割を果たすことが示唆される。ただしマウス骨格筋においてpapilinの役割は検討されていない。papilinと類似のタンパク質をもつADAMTSL2 (punctin) は骨格筋において強く発現し、かつ培養細胞を用いた実験から筋芽細胞の分化制御に重要な役割を果たすことが示唆されている。papilinも同様に骨格筋発生あるいは再生において重要な役割を果たす可能性がある。そこでこの研修期間においてはpapilinがマウス骨格筋において果たす役割を検討することを目的として実験を行った。

まずマウスにおける骨格筋内でのpapilinの発現を免疫染色法にて解析したところ、papilinは骨格筋細胞外基質部分に存在するものの、その局在はheterogeneousであることがわかった (写真1)。連続切片を用いてSDH染色像との比較を行ったところ、papilinはSDH染色において染染されるいわゆる酸化型の筋線維の細胞外マトリクスに存在することがわかった。ただしpapilinは骨格筋内の血管および毛細血管にも存在することが確認されたため、骨格筋由来細胞であるC2C12を用いてそのpapilinの産生能を検討した。その結果、筋細胞に分化したC2C12細胞の細胞層にpapilinの存在を確認した。

次にpapilinノックアウトマウスを用いてタイプ別筋線維断面積の比較を行った。その結果、予備的ではあるが、papilinノックアウトマウスはタイプIあるいはIIa筋線維の断面積がより大きく、IIbにおいては差がほとんど見られないとの結果を得た。

以上から、骨格筋においてpapilinは特にタイプIあるいはタイプIIa筋線維周囲の細胞外マトリクスに存在することがわかった。また、papilinはその線維径を調整している可能性が示唆された。

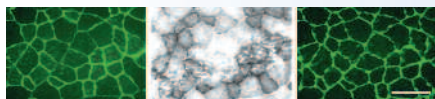


写真1/papilin (左)、SDH染色 (中央)、IV型コラーゲン (右) の筋線維 (内側) の染色像。連続切片。IV型コラーゲンはほぼ全面が強く染まっているのに対して、papilinはある特定の部分のみが強く染まっていることがわかる。スケールは



UC Berkeleyにて撮影。後ろはセイザータワー (Sather Tower)

この経験は必ず学生の皆様や大学に還元すべく今後の教育研究活動に日々努力する所存です。

特に大学アメリカンフットボールや大学バスケットボールのシーズンになるとその結果が毎日スポーツニュースのトップで報じられます。カリフォルニア州にはそれ以外にも有名な大学が多数あります。私もこの滞在中にUniversity of Southern California (USC), California Institute of Technology (Cal Tech), UC Berkeleyなどを訪問しました。特にUSCとUCLAとはライバル的な関係にあり、アメリカンフットボールの試合のときは大変なまでにわいになります。二年間の研修を許可してくださった日本体育大学および関係の皆様、不在中に迷惑をおかけした学生、教職員の皆様には心より感謝いたします。

スポーツ課調べ 8月～11月 情報は新聞各紙(日体大スポーツ含む)・インターネットからの抜粋

クラブ名	大会名	結果	氏名
■アーチェリー	北京五輪 全日本学生個人選手権 つま恋カップ 国民体育大会 全日本選手権	女子個人 6位、団体 8位 女子 優勝 女子 2位 男子 2位 女子 2位 成年男子 団体 3位 成年女子 個人 優勝 成年女子 団体 2位 男子コンパウンド 2位 女子リカーブ 優勝 女子 優勝 男子 3位 成年男子 69キロ級スナッチ 2位 成年男子 69キロ級トータル 6位 一般女子 75キロ級 優勝 成年男子 フラットフォーターレーシング・カナディアンシングル(200m) 3位 成年男子 フラットフォーターレーシング・カナディアンシングル(500m) 2位	早川浪(4年) 早川浪(4年) 殿恵達(2年) 山本博(短大准教授) 早川浪(4年) 坂野太一(2年) 早川浪(4年) 早川浪(4年) 島田隆之(3年) 早川浪(4年)
■アメリカンフットボール ■ウェイトリフティング	関東大学リーグ 国民体育大会 トキめき新潟国体記念杯 国民体育大会	成年男子 69キロ級スナッチ 2位 成年男子 69キロ級トータル 6位 一般女子 75キロ級 優勝 成年男子 フラットフォーターレーシング・カナディアンシングル(200m) 3位 成年男子 フラットフォーターレーシング・カナディアンシングル(500m) 2位	濱田晃嘉(4年) 濱田晃嘉(4年) 糸数愛(4年) 久保直也(2年) 久保直也(2年)
■カヌー	関東大学女子リーグ	男子81キロ級 優勝 男子60キロ級 3位 男子三段以上の部 最優秀 男子三人掛けの部 最優秀 女子三段以上の部 最優秀 女子団体の部 最優秀	小林雅司(1年) 山本浩史(1年) 渋谷雄生(3年)、小倉一慶(2年) 安東雅喬(3年)、深瀬裕太郎(3年) 瓜本久貴(1年) 中田晶子(4年)、栗田佳織(3年)
■柔道	世界ジュニア選手権	男子総合優勝 男子200メートル個人メドレー 優勝 男子400メートル個人メドレー 優勝 女子100メートル背泳ぎ 2位 女子100メートル自由形 3位 女子400メートルリレー 3位 成年男子 200メートル個人メドレー 4位 成年女子 100メートル平泳ぎ 8位	仁木康浩(4年) 仁木康浩(4年) 田部井恵理(3年) 松本弥生(1年) 家崎なつ子、松本弥生、会澤美予、田部井恵理(3年) 仁木康浩(4年) 佐藤かほり(院後期3年)
■少林寺拳法	全日本学生大会	男子個人戦 優勝 男子団体戦 優勝 男子135キロ以上級 優勝 男子成年 個人 優勝 男子個人戦 2位 男子個人戦 ベスト4 男子団体戦 優勝	全日体大 榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■水泳(競泳)	関東学生選手権 日本学生選手権 国民体育大会	男子個人総合 銀メダル、団体 銀メダル、床 5位 男子団体 2位 男子個人総合 2位、床 優勝、平行棒 優勝 男子つり輪 優勝 女子団体 優勝 女子個人総合 2位、床 優勝 男子種目別 床 2位、鉄棒 3位 男子種目別 跳馬 2位 成年男子 団体 3位 成年男子 団体 4位 成年女子 団体 3位 成年女子 団体 6位 男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	仁木康浩(4年) 仁木康浩(4年) 田部井恵理(3年) 松本弥生(1年) 家崎なつ子、松本弥生、会澤美予、田部井恵理(3年) 仁木康浩(4年) 佐藤かほり(院後期3年)
■水泳(飛び込み)	日本学生選手権	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	全日体大 榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■水泳(水球)	日本学生選手権	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	全日体大 榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■スピードスケート	全日本距離別選手権 日本学生選手権 真駒内選抜競技会	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■相撲	全日本大学選抜十和田大会 全国学生個人体重別選手権 国民体育大会 全国学生選手権	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	全日体大 榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■ソフトテニス ■ソフトボール	アジア選手権 全日本大学選手権大会 秋季リーグ戦 国民体育大会 全日本選手権	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	全日体大 榑伸悟(3年) 小山友香里(3年) 上條有司(4年) 藤村祥子(3年) 川崎みなみ(4年) 稲村政人(3年) 宮本泰成(4年) 伊東良(4年) 明月院秀政(2年) 明月院秀政(2年)、宮本泰成(4年)、伊東良(4年)、立野卓(3年)、田中達也(2年) 篠原秀典(日体大助手)
■体操競技	北京五輪 全日本学生選手権 ハンガリー国際競技会 国民体育大会 全日本選手権 豊田国際 アジア選手権	男子個人総合 優勝、床 2位、あん馬 2位 男子個人総合 3位、つり輪 優勝、床 2位、あん馬 3位 男子団体総合 優勝 女子団体総合 2位 男子床 2位 男子個人総合 優勝、床 2位、つり輪 2位、跳馬 5位 男子団体総合 優勝	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■トランポリン	全日本選手権大会	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■バドミントン	関東大学春季リーグ戦 関東大学秋季リーグ戦 全日本学生選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■バレーボール	全日本総合選手権 秋季関東大学リーグ戦	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■ハンドボール	関東学生・秋季リーグ戦 全日本学生選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■フェンシング	関東学生選手権大会	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■バレーボール	全日本総合選手権 秋季関東大学リーグ戦	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■ハンドボール	関東学生・秋季リーグ戦 全日本学生選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■フェンシング	関東学生選手権大会	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■軟式野球	全日本学生選手権 全日本大学対抗選手権 全日本大学女子選手権 ジャパンカップ	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■陸上競技	日本学生対校選手権 国民体育大会 日本ジュニア選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■レスリング	北京五輪 全日本学生選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■セパタクロー	全日本選手権大会 全日本学生選手権	男子個人 3位 男子団体 3位 女子団体 2位 女子 2位 男子 優勝 女子 2位 男子団体 2位 男子個人 優勝 男子ダブルス ベスト4 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝 女子ダブルス ベスト4 男子シングルス 5位	内村航平(2年) 内村航平(2年) 岡村康宏(4年) 田中理恵(3年) 太田晃輔(4年) 山室光史(2年) 齋藤優佑(2年) 中島立貴(3年) 小泉亜衣(4年) 金子友香(3年) 内村航平(2年) 山室光史(2年)
■ダブルタッチ	double dutch delight japan 2008	優勝(世界大会出場決定) 3位(世界大会出場決定)	真珠星

©PHOTO KISHIMOTO



TOPICS

「日本体育大学名誉博士称号授与式」 クウェート国 シェイク・アハマド・ アル・ファハド・アル・サバーハ殿下へ 名誉博士称号授与



本学は、10月23日(木)東京・世田谷キャンパス大会議室にて「日本体育大学名誉博士称号授与式」を挙行し、クウェート国シェイク・アハマド・アル・ファハド・アル・サバーハ殿下(アジア・オリンピック評議会会長)に日本体育大学名誉博士称号を授与した。本学から4人目の名誉博士称号授与。

これは、シェイク・アハマド・アル・ファハド・アル・サバーハ殿下の、アジアのみならず、国際的な立場から学術・文化・教育・スポーツの発展に寄与され、かつ我が国と、クウェート国、アジア・オリンピック評議会との間の交流を促進した顕著な功績を評価し、授与したものである。

また、本学が「建学の精神」に基づき、一貫して追求し続けてきた、体育・スポーツを通じた心身の健康を育み、かつ世界レベルの優秀な競技者を育成するという、そして、ミッションに謳っている“オリンピックムーブメントを主導的に推進し、スポーツの「力」を基軸に、国際平和の実現に寄与する”ことと一致するものである。加えて、本学は多くの選手・役員等がオリンピックをはじめとする各種スポーツの国際大会に参加していることもあり、シェイク・アハマド・アル・ファハド・アル・サバーハ殿下の功績は、本学の教育活動を遂行するために大きく貢献していることを評するものである。



シェイク・アハマド・アル・ファハド・アル・サバーハ殿下スピーチ(要旨)



日本体育大学 落合卓四郎学長、日本体育会 塔尾武夫理事長、松浪健四郎 衆議院議員、JOC竹田恒和会長、IOCの皆様、日本の各競技連盟の皆様、日本体育大学の教授の皆様、ご参会の皆様、この度は大変歴史の長い、権威ある大学から名誉博士称号を授与いただきましたことを大変光栄に存じております。日本体育大学は、日本のみならずアジア、そして世界に目を向け、科学、特に体育、スポーツの領域における活動を盛んに

行っている大学と認識しております。

この栄えある称号をいただきましたことを、胸に刻み、今後自分の任務を遂行するにあたり、スポーツの推進活動を進めていく中、スポーツ科学に関する研究の中、更には私のすべての仕事の中で、この精神を忘れずにいたいと思っております。

アスリートたちは自分が頑張ってきたということを、競技会において金・銀・銅のメダルを授与されることで知ります。しかし、私どものような役員や関係者は、自分が頑張ったということ、このような栄えある名誉称号を頂戴することや、社会で認知されることによって知るわけです。

さて、今後重要であると思われる3つの点にて私からお話させていただきます。

まず第1点目は、皆様ご存知のようにオリンピックムーブメントについてです。ビエール・ド・クーベルタンがその昔、趣味としてスタートしたオリンピックムーブメントのシステムが一変したのが、1992年であり、当時のサマランチ会長が地球規模の活動をオリンピックムーブメントに導入されてからのことです。それ以来こういったスポーツ関係のムーブメントというのは、巨大な産業になり多くの人々を惹き付けることになりました。そして様々なイベントや、大会から色々な収益を得るということになりました。そしてそうした資金源を元に皆が求めている目標を達成しようということが起こるようになりました。

そして2つの形で選手たちにも自分達の目標の達成を図るようになりました。ひとつは近道です。すなわち競技成績を上げるための薬物使用ということ。もうひとつは自分たちが頑張った努力をし、そして財を築いて技術的に自分たちのスキルを出すという形で成り立っております。

オリンピックムーブメント並びにスポーツムーブメントは、このようなスポーツ界におけるドーピングなどの動向を抑制、防止しようという試みを継続しております。WADA(世界アンチ・ドーピング機構)という組織、並びにドーピングセンターを通じて、その他の規制やルール作りなどを通じてです。

そしてその成果として、ドーピングの発生件数を決定的に抑えることができています。

もうひとつの成功への道のりを果たすためには、日本体育大学のような様々な努力、研究などが必要で

す。オリンピックムーブメント並びにスポーツムーブメントにおいては、今後も研究あるいは新しい技術が大変重要になってきます。その研究成果・技術革新によって今後大きく前進していくものと思

います。そしてその時に様々な大学の研究者、スポーツ関係の科学者にコーディネートしてもらうためにそれを働きかける役目が私達にあると思っています。そうすることによってスポーツムーブメント、オリンピックムーブメントを成功に導けると思います。

日本体育大学が、サイエンスとスポーツの分野において大きな成果をあげていらっしゃることに本心より敬意を表します。

第2点目は、日本、あるいは日本体育大学からたくさんの選手を排出している関係もあるかとも思うのですが、昨今アジアオリンピック評議会ですらこんなに色々な出来事があるのかということをご説明します。

即ちオリンピックにおける昨今のような様々のスポーツの終焉、そしてオリンピック以外の競技大会などです。

私どもが行っている、あらゆる大会や行事は、国際オリンピック委員会(IOC) 指導のもとでコーディネートをしきんと行っており開催しているということをお伝えしておきたいと思

います。また、開催にあたり明確なビジョンも発表しております。

すなわち、スポーツの機会・環境というのは、すべての若者、選手に提供されるべきであると私どもは思っています。

全ての国々において、スポーツを皆が楽しめるように整備されることを私は望んでいます。趣味としてもそして競技、スポーツとしても楽しめるようにしなければならないと思います。例えば将来、2人の兄弟を持ち、その1人が同じ武道である空手、そしてもう1人がテコンドーをして

いた場合、なぜ自分はオリンピックの競技に参加できないのに私の兄弟はオリンピック競技として参加できるのかというような、非常に不幸なことになってしまいかねません。

あらゆる競技の大会に参加できる機会を早急に設けて、できるだけ多くの若者、できるだけ多くの選手たちに色々な機会を提供して参加を楽しんでもらえれば、最善を尽くしたいと思

います。最後3点目は、様々なサイエンス並びにスポーツの領域において問題になり論議されている課題は、オリンピックムーブメントをはじめとするスポーツに関する自律性の問題です。これは第三世界、発展途上国だけでなく、先進国と一体になってやらなければならない課題です。

私たちは一方でドーピングの防止に関して多くの努力をしていますが、このことと自律性を持たせるといって併せて問題解決に努力していきます。

日本スポーツ界のトップの方々、アカデミックなトップの方々のご臨席のこの場で私の見解を述べさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

TOPICS

大学間に蔓延する大麻問題について11月25日(火)警視庁と協力して薬物乱用防止対策を実施

平成20年11月25日(火)、東京・世田谷キャンパス新校舎駐車場において学生および教職員を対象に、大学間に蔓延する大麻問題について警視庁の協力を得て「薬物乱用防止キャラバンカー」による薬物対策キャンペーンを実施した。



TOPICS

「第49回東京都私立短期大学体育大会」バレーボールの部で優勝

9月28日(日)に東海大付属高輪台高等学校アリーナにおいて「第49回東京都私立短期大学体育大会」が開催され、バレーボールの部で、本学短大が優勝した。

この大会のバレーボールの部は

東農短大(部)や東海大短大(部)など短大6校によるトーナメント制で争われ、本学は短大体育科教授の村本和世監督の指揮のもと、2年生10人、1年生2人の12人でのチーム編成で臨み、全試合ストレート勝ちで見事優勝を飾った。

選手たちは忙しい授業の合間の昼休みや夏休みの早朝に練習を重ねて、2年ぶりの栄冠を手にした。選手の高橋亜希子(体育科2年)は「努力の成果が実りました」と喜びを語った。



■キャリア支援センター 就職状況の報告

来年度は企業就職は厳しく公務員に人気が集なか

【公立教員の就職】

平成20年度に実施された公立学校教員採用試験の合格延べ人数は、19人（前年度比9人減）となりました。都道府県別にみると、東京都8人、神奈川県5人、千葉県3人、埼玉県2人、名古屋1人となっています。教科別では、保健体育15人、特別支援2人、小学校2人でした。

なお、東京都では本年度より期限付任用教員の名簿登載者も発表しており、本学からは11人が登載されました。

【企業の就職】

平成20年10月31日現在、企業就職希望者の60%が内定を獲得しております。まだ活動継続中の学生もあり、年内にはまだ数字が伸びる予定です。

今秋のニュースでもたくさん取り上げられていますが、世界経済の悪化に伴い、企業就職も確実に厳しくなってきました。本学の内定者の中にも「景気悪化により内定が取り消された」という事例が1件（11月末現在）あります。来年度の企業就職は確実に厳しく「就職氷河期再来」との論調もあります。しかし、早期からの準備が良い結果につながることは変わりませんので、キャリア支援センターとしては引き続き強力なサポートを実施していきます。

【公務員の就職】

平成20年10月31日現在、公務員の職種別合格延べ人数は、警察官43人、消防18人、行政1人、保育士1人、自衛官1人という状況です。今後も試験が実施されますので、まだ数字が伸びることが期待されます。

来年度以降、企業の採用人数が減少する傾向があるため、公務員就職に人気集中することが予想されます。

【幼稚園・保育園の就職】

今年度専攻科保育専攻の第1期生が修了していきます。平成20年10月31日現在、幼稚園や保育園等に順調に就職を決めております。11月に求人ピークを迎えており、年明けまでにはほとんどの学生が就職を決めると思います。なお、幼児教育保育科2年生の幼稚園就職希望者については、100%の就職率でした。

○告知

学内 合同就職説明会開催!!

～迷っている暇はない。参加することに意義がある～

平成21年1月17日（土）に横浜・健志台キャンパスで、企業や教育委員会などの約50団体をお招きし、合同就職説明会を開催します。主に学部3年生と短大1年生を対象としておりますが、誰でも参加できますので、奮ってご参加ください。申込方法等の詳細は、学内掲示にてご確認ください。



■入試インフォメーション

☆受験生の夢をかなえるためのキャンパスライフを紹介する、受験生応援サイト「エッサッサ」を開設!!!

<http://www.nittai.ac.jp/essassa/index.html>

「ふるさとの先輩を探せ」「学科ナビ」「願書・資料請求」など…を掲載。

ホームページにアクセスしてみよう!!



日本体育大学 一般入試情報

●入試の変更点!!

- ①一般入試実技試験を学科共通で実施（1回のみでOK）。ただし、武道学科専攻実技試験は筆記試験日（2月4日）に実施します。
- ②併願受験減免制度導入。

学科	出願期間	試験日	合否発表日	入学手続締切日
体育学科	平成20年 12月15日（月） ～ 平成21年 1月15日（木）	平成21年 2月2日（月）筆記 3日（火）実技	平成21年 2月10日（火）	平成21年 2月20日（金）
健康学科 武道学科 社会体育学科		平成21年 2月3日（火）実技 4日（水）筆記 ※武道実技は筆記試験終了後に行います。		

日本体育大学女子短期大学部（体育科・幼児教育保育科） 一般入試情報

出願期間	試験日	合否発表日	入学手続締切日
平成20年 12月15日（月） ～ 平成21年 1月15日（木）	平成21年 2月1日（日）	平成21年 2月10日（火）	平成21年 2月20日（金）

※詳細については「平成21年度 学生募集要項」をご覧ください。

【学生募集要項（願書）の請求方法】 出願締切日の1週間前に願書の発送は終了します。お早めにご請求ください。

●テレメールでのお申込み：下記へアクセスして、資料番号を入力してください。（願書は無料です）

IP電話 050-2015-0555（自動音声応答電話）

パソコン・携帯 <http://telemail.jp>

資料番号 296885

問い合わせ先：アドミッションセンター 045-963-7955

■図書館の所蔵資料検索（OPAC）、開館予定が携帯電話で確認できるサービス開始。

所蔵資料検索（OPAC）はトップ→資料検索、開館予定はトップ→メニュー→開館情報にアクセスしてください。

■右記URLにアクセスしてください。 <http://library.nittai.ac.jp/k>

※QRコードは（株）デンソーウェブの登録商標です。



こちらのQRコードからもアクセス可能です。

【編集後記】 特集1で取り上げた北京オリンピック報告会では、出場したほとんどの選手、役員、コーチ、トレーナーが一同に会しました。まさしくこれは日体大にしかできない豪華オリンピックの競演でありました。卒業生から在学生へ、先輩から後輩へ受け継がれる日体大の良き伝統をひしひしと感じました。新年にはもう一つの襷根レーが箱根路で繰り広げられます。日体大スポーツ全体の2009年新たな年の行方を占う意味でも、この箱根駅伝を走る選手たちのプレッシャーは計り知れないものと察します。ただただ願うのは、選手諸君の持っている力を全て出し切って、悔いのない、爽やかな走りをしてもらいたい。順位は結果論に過ぎないのですから。駆け抜けろ！日体大